

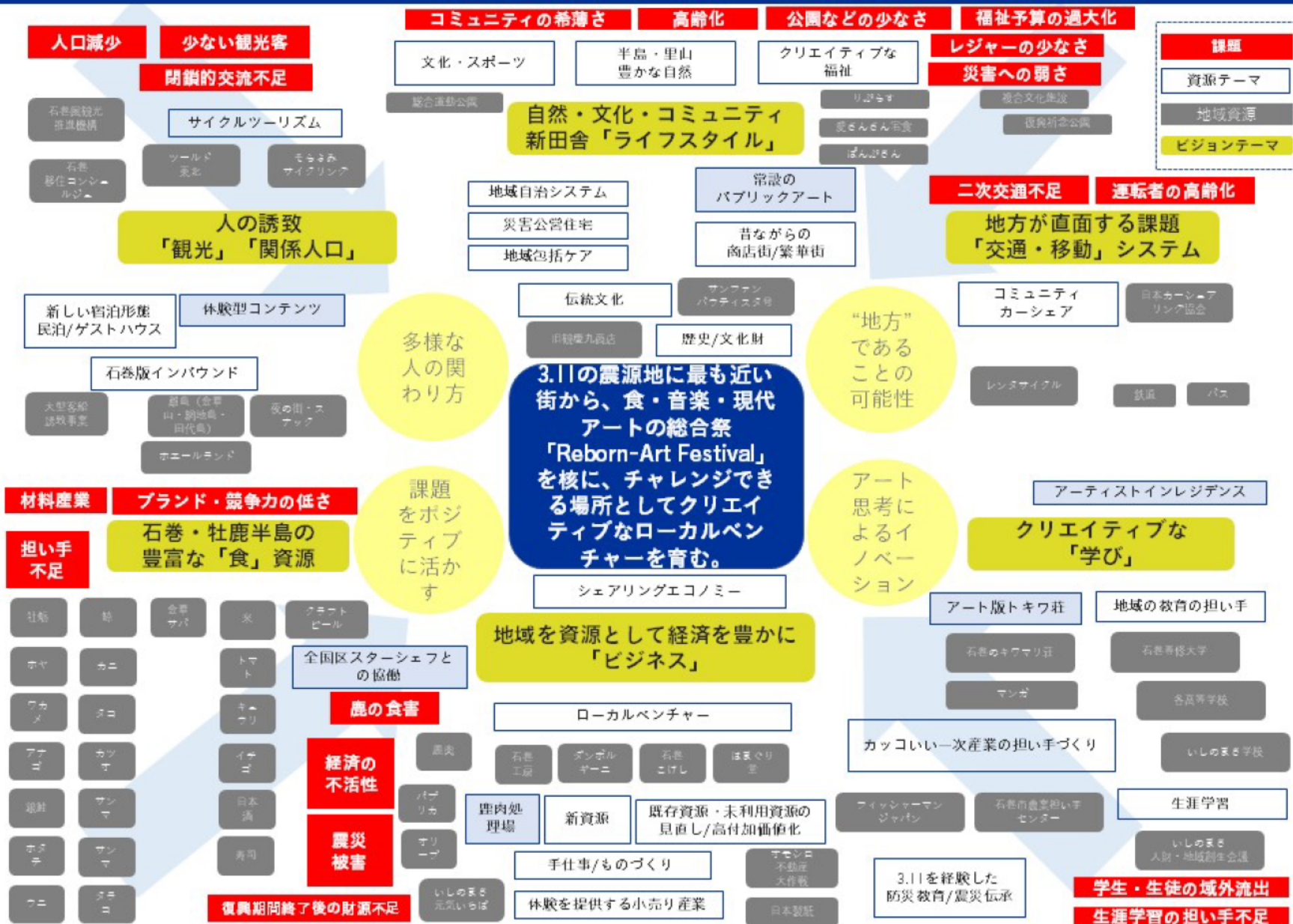
環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 **成果報告会 発表資料**

活動団体名：一般社団法人Reborn-Art Festival
活動地域：宮城県石巻市

ネガ（課題）をポジ（資源）に。
アート思考でクリエイティブな持続的復興創生を。

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

リボーンアート・フェスティバルを核とした石巻地域循環共生圏



地域のビジョンを実現するための成果指標

3.11の震源地に最も近い街から、食・音楽・現代アートの総合祭「Reborn-Art Festival」を核に、チャレンジできる場所としてクリエイティブなローカルベンチャーを育む。

短期目標

長期目標

環境

FISHERMAN JAPANによる新規漁業従事者獲得増加

水揚げ金額を184億円から250億円に

石巻市産ホップ使用クラフトビールの販売量を年間3,000リットルから3,500リットルに

農業産出額を152億2千万円から200億円に

経済

ローカルベンチャーの新規事業創出数を18件から22件に

ローカルベンチャーの売り上げ規模を1億6290万円から10億円に

社会

リボーンアート・フェスティバル延べ来場者数を44万人から50万人に

観光客入れ込み数を248万人から300万人に

移住コンシェルジュによる新規移住者を33人から40人に

将来人口減少を13万人にとどめる

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	リボーンアート・フェスティバル	
	事業の概要	食・音楽・現代アートを柱とした総合芸術祭。石巻・牡鹿半島をメイン会場とし、次回本祭は2021年を予定する。音楽プロデューサーの小林武史氏と同氏が代表を務めるA Pバンクが中心となって東日本大震災からの持続可能な復興を目指しスタートした。2019年の本祭では延べ来場者数44万人を獲得。2018年からは地元の有志によりRAFをサポートしRAFを活かした地域振興を図る取り組み「RAF石巻実行委員会」も立ち上がっている。	想定される課題・ボトルネック 地元における認知度・支持率がまだ低い。 二次交通が脆弱。 半島地域の飲食店や宿泊施設が少ない。 子どもの参加が少ない。 魅力的な定番となるお土産が少ない。
2	事業の名称	鹿肉の食肉加工販売	
	事業の概要	小積浜に設けた食肉加工施設を拠点に、“食猟師”小野寺望氏の運営のもと、これまで有害駆除され廃棄物となっていた鹿をジビエ食材として高付加価値化とともに流通させる。	想定される課題・ボトルネック 安定的に販売できる販路の不足。 猟師の担い手不足。 鹿肉を有効活用した加工商品開発。
3	事業の名称	ローカルベンチャーの推進	
	事業の概要	地域資源を活用し、社会的課題解決という意識も併せ持ったベンチャービジネス的発想の“ローカルベンチャー”の創業・事業拡大や、ローカルベンチャーの担い手となることを目的とした移住促進を支援する。	想定される課題・ボトルネック 創業したばかりのローカルベンチャーのスケールアップ、安定経営化。 ローカルベンチャーの拠点となる土地建物。 ローカルベンチャーの初期資金獲得。 既存住民や既存企業との有効な関係構築。

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- 他分野から11主体がステークホルダーとして参加し、分野を横断して各主体が課題意識を共有できた。
- これまで事業ごとに個別に連携していた主体が一つのプラットフォームを意識することができ、巻き込むべき主体について視野が広がった。

地域の活動の上での課題

- 地域のビジョンについて：レイヤーや情報の解像度の異なる要素を1枚の紙の上に並べるのが難しかった。課題解決に向けたロジック、道筋などをどのレベルで抽象化すればいいのか悩ましかった。
- 成果指標について：どのように測定すればいいのか悩ましい内容が多く、指標の立て方が難しかった。

今後の意気込み

- 次回本祭「Reborn-Art Festival 2021」に向けてステークホルダー間の連携を深め、拡充を図る。

